

「My Love Story」

— 1 稿 —

2026/04/26
山極 瞭一朗

〈人物表〉

和内 健作

(28)
会社員

御堂 清香

(28)
健作の恋人

垣田 雅道

(31)
健作の先輩

1. 公園（夜）

川が流れる。月明かりが川面に反射している。
和内健作（28）、御堂清香（28）と共に、ベンチに佇み、景色を眺めている。

健作、やや緊張気な面持ちで、清香の横顔を見て、

健作 「清香」

清香、不思議そうに健作を見つめる。

健作はポケットから小箱を取り出すと、清香の前に掲げる。

清香はハツとして息を呑む。

健作 「清香……」

と、パカッと箱を開ける。

そこには、ダイヤ輝く指輪がひとつ。

健作 「結婚しよう」

清香、思わず口元を抑える。

健作 「一緒に、幸せになりたい」

清香、何も答えられないように……

その瞳から、一筋の雫が滴り落ちる。

× × ×

健作、ベンチでただひとり座っている。背もたれに寄りかかり、空を見上げる。

輝く月と満点の星空。

傍らには、パカッと開いたままの小箱。ダイヤも輝いている。

健作、大きく息をつくと、瞳を閉じる。その頬は歪んでおり、流れるものを抑えることはできない。

すると、スマホにメッセージ通知。

健作、さっと目元を拭くと、スマホを取る。

2. BAR・外観（夜）

路地裏にひっそりと佇む隠れ家的店。

3. BAR・店内（夜）

テーブル席では、数組の男女が仲睦まじげに顔を寄

せ合い談笑している。

カウンター席の垣田雅道（31）、男女から視線を逸らすと、隣の健作に向き直って、

垣田 「撃沈ね」

と、手元のウイスキーグラスを手取る。

その左手薬指、指輪が光る。

健作、垣田の指輪をチラッと見る。

垣田、視線に気付くが、気付かないふりをして、酒を呑み、

垣田 「理由は？」

健作 「わかんなくて」

垣田 「お前が浮気したとか」

健作 「してませんよ」

垣田 「じゃあ、相手——」

健作、食い気味に、

健作 「あり得ません」

垣田 「結婚前提で付き合ってたんだろ？」

健作 「少なくとも俺はそのつもりでした」

垣田 「何年？」

健作 「今日で丸4年です」

垣田 「お互い前提ってわかってた？」

健作 「なんでそんなこと……」

垣田、しみじみと、

垣田 「4年ね……」

と、グラスを回す。カランと氷が音を立てる。

垣田 「もう少しプロポーズ早くてもよかったんじゃないの？」

健作、ややムツとして、

健作 「待たせ過ぎたってことですか」

垣田 「2人のことわかんないけどさ、お前は心当たりないの？」

健作、思い当たる節があるようで、垣田から視線をそらし、

健作 「彼女は、何かそれを望んでないような気はしていた」

垣田 「強行したってわけだ」

健作 「そして確定しました、望んでいなかったと」

垣田 「お前は どうしたい？」

健作、垣田を見つめる。

垣田 「プロポーズ失敗しただけで、別れたわけじゃない。このままの関係を続けるのか、終わりにするのか」

健作 「垣田さん……」

垣田 「ま、何かあったらいつでも連絡してこい」

と、ぐいと酒を飲み干す。

健作、大きく息をつく。

4. アパート・健作の部屋（昼）

ワンルールの室内。

壁には健作と清香のツーショット写真が多数飾られている。

健作、キッチンで料理をしている。

すると、インターフォンが鳴る。

健作、さつと火を止めると、部屋を出る。

中華鍋には、炒飯。

5. アパート・健作の部屋・玄関（昼）

健作、扉を開く。

神妙な面持ちの清香がポツリ。

健作 「久しぶり」

清香 「うん……」

6. アパート・健作の部屋（昼）

テーブルには、湯気の立った炒飯。

健作と清香、対面に座っている。

健作 「いただきます」

と、ぎこちなく清香を窺って、

健作 「さあ、冷めないうちに」

清香、薄く笑んで、

清香 「うん、いただきます」

黙々と炒飯を食べる2人。

スプーンのこすれる音だけが響く。

すると、健作は心を決めたように、

健作 「この前のこと」

清香、ピタッとスプーンを持つ手を止める。

健作 「俺、清香のこと——」

清香、咄嗟に遮って、

清香 「違うの」

健作 「え？」

清香 「健作は悪くない」

健作 「……どうということ？」

清香 「結婚はできないの」

健作、わけがわからないといった様子で、

健作 「……清香？」

清香 「健作の気持ちは嬉しい。本当に、本当に嬉しかった。だけど、どうすることもできないの」

健作 「どうして？」

清香、瞳を閉じて、大きく深呼吸をする。

健作 「結婚、今まで避けてたことと関係ある？」

清香、ハツとして、

清香 「気付いてたんだ」

健作 「なんとなくね」

清香 「ごめんね、態度に出てたよね」

健作 「俺が清香を傷つけた？」

清香 「ううん、違う。全然違う」

と、ゆっくりとスプーンを置く。

清香 「全部、私のせいだから」

健作 「なんで？」

清香 「望んじやいけないけど、もう少し、もう少しだけって欲張って、言えないまま時間だけが過ぎた」

健作 「清香……」

清香 「ごめん」

目元をきつと拭い、呼吸を整えて、

清香 「はっきり言うね」

健作、スプーンをぎゅっと握る。

清香 「私、結婚してるの」

健作、呆然として、その手からスプーンが落ちる。
清香 「ずっと黙ってて、ごめん」

7. アパート近くの道（夕）

2階から降りてきた清香は、立ち止まる。アパート
を見上げる。

清香 「ごめん……」

視線を背け、向こうに歩いていく。

8. アパート・健作の部屋（夕）

健作、壁に飾られた写真をじっと見つめている。

テーブルには食べかけの炒飯。

健作、頬を歪める。そしていたたまれなくなって、

勢いよく写真を剥がしていく。

床に散らばる健作と清香のツーショット。

健作、ガックシとその場に崩れ落ちる。ほろりと涙
が滴り落ちる。

（おわり）